

のんた

15

山口の土地改良

vol.15

Autumn 2013

21世紀の食料・環境・ふるさとを考えよう!

●巻頭特集

農山漁村女性・シニア活動表彰
農林水産大臣賞受賞!

6次産業化で地域活性化

「小行司健康グループ」

(田布施町)

入選作品のご紹介

第14回食料・環境・ふるさと

写真コンテスト

入選おめでとう!!

「ふるさとの田んぼと水」
子ども絵画展2012

教えてQ&A

土地改良区

水土里ネットって

何だろう

農山漁村の 6次産業化って？

国では今、農林漁業生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出を促進するなど、農山漁村の6次産業化を推進しています。その目的は、農山漁村で、雇用と所得を確保し、若者や子どもも集落に定住できる社会の構築です。

国は農林漁業の振興等を図ることを目指し、平成22年12月、「六次産業化・産地消法」を公布しました。その支援内容などは、農林水産省のホームページなどで見るすることができます。

今、農林漁業生産・加工・販売の一体化など、農山漁村の6次産業化が注目されています。そうした中、地域の特産品を利用した食堂経営や加工販売、いわゆる6次産業に取り組み、地域の活性化を長年けん引してきたグループが田布施町にあります。平成24年度農山漁村女性・シニア活動表彰で最優秀賞の農林水産大臣賞を受賞した「企業組合小行司健康グループ」をご紹介します。

●巻頭特集

農山漁村女性・シニア活動表彰 農林水産大臣賞受賞！

6次産業化で地域活性化 「小行司健康グループ」 (田布施町)

柳井市中心部から黒杭ダムの東沿いを走る県道7号を通って約10分。小行司地区は柳井市・光市・岩国市に囲まれた中山間地、田布施町の飛び地にあります。

「今でこそ立派な県道が通っていますが、以前は車の離合が難しい、幅の狭い道が蛇行していて、万一、救急車や消防車を呼べば一体いつ到着できるだろうという、とても不便なところだったんですよ」

そう語るのには、企業組合小行司健康グループの代表、河村久美子さんです。兼業農家に嫁ぐまで農業の経験はなかった



取材日に出動されていたスタッフの方々。
メンバーは現在、60代から70代の女性約20人。



県道7号沿い。旗や赤い屋根が目印です。

河村さんが、農業や地域と深くかかわるようになったのは今から30数年前、イチゴを作ってみませんかという行政からの呼びかけがきっかけでした。

それに応じたことで同じ地域の女性たちと知り合い、県や町、農協とのつながりも生まれ、河村さんたちは県農業普及所の指導で地域を点検するマップづくりに取り組みました。地域の課題や地域の資源を知り、野菜作りの勉強会も重ねる中、どうすれば住みよい地域にできるかを女性たち自ら考えるようになりました。

工事関係者の需要に着目。 食堂オープン！

平成元年、地域の女性たちによる小行司健康グループを結成し、たくさん収穫



「にこにこパーク」。地域の男性たちが地域の木を伐り出し、建ててくれた施設。瓦は地域の瓦店の寄付

できるようになった野菜を売る場所を作ろう、加工所を作ろうということになりました。

町に掛け合った結果、辺地対策事業として平成6年、加工施設が建設されました。その計画には当初から、将来的には食堂も開きたい、という夢がありました。その夢は平成8年、飲食店・直売施設「にこにこパーク」の完成で実現します。県道は当時、まだ整備中で、その施設は工事関係者の需要にいち早く着目し、惣菜やうどんなどを販売しようと考えたものでした。

狙いは当たり、施設がオープンすると、多くの工事関係者が利用し、グループの果敢な挑戦は大きな一歩を踏み出しました。

法人化を機に生まれた プラス効果

小行司健康グループにとって、さらに転機となったのは平成17年、JA南すおうの直売所「遊気百菜」（柳井市）に弁当や菓子などの出荷を始めて売上が急増し、法人化を図る必要が生じたことでした。そして平成20年、組合法人として法人化。このことはグループ員の意識にも大きな変化をもたらしました。

それまで各自が自己流で作っていた味から、できるだけ均一した味へ。そ

れぞれの製造部門が独立採算性で当日の収益を分配していたやり方から、企業組合として収益を一本化へ。グループ全員が出資者・経営者・従事者と認識する現在の形へ時間をかけて変えていく過程で、大きな効果が生まれま

河村さんや惣菜責任者の末廣悦子さんは当時を振り返ります。

「変えていくことは本当に難しく、みんなの努力と協力がなければできませんでした。でも、そのことを通じて、みんなの一体感、まとまりが生まれたんです」

地域に認められ、 地域と共に歩む

法人化後は、地域に認められ、地域と共に歩み発展する企業グループを目指す目標を明確にしました。

その目標のもと、整備したほ場を守るため地域の農家から経営委託を受けて平成10年に設立された農事組合法人小行司と連携。農事組合法人が作った米・大豆・麦・イチゴなどを活用し、新商品を開発していきました。

加工食品は、グループ員がつくった野菜や、瀬戸内産の材料など、できるだけ地元産の材料を使って商品をつくっています。人気の納豆麹は、納豆・麹・ニンジン・昆布など具だくさんで美味！今話題の発酵食品、自由な食べ方で楽しむ、食べるみそです。



ごはんや酒の肴にぴったりの人気の新商品「納豆麹」や「にんにく味噌」、ユニークな「里芋パン」など。



また、小行司の特産品を作ろうと、「ま

るごと小行司セット」を地域ぐるみで商品化。さらに、農事組合法人小行司がつくった大豆や米、地域の皆さんが作ったジャガイモ、グループで作った野菜などを用いて「小行司定食」を生み出し、にこにこパークの食堂は地産・池消料理を提供する「やまぐち食彩店」として、やまぐちの農林水産物需要拡大協議会から認定されました。

県東部の各市町を結ぶ快適な県道が整備された今、県道沿いにたつ「にこにこパーク」には、小行司のおいしい幸などを求めて絶えず人が訪れます。

注文も受けているお弁当は手作りの味が愛され、10年以上続く常連のお客様や、スポーツ大会など、大口の注文も多く、グループ員の喜び、働きがい

を生んでいます。

グループは現在、菓子・味噌・食堂・直売など7部門の起業活動を展開。女性の活躍や雇用の場としての役割を果たし、長年、地域活性化も牽引し、研鑽や工夫を重ねながら農村での女性高齢者の活動発展に大きな役割を果たしたことが評価され、今年3月、平成24年度農山漁村女性・シニア活動表彰で農林水産大臣賞を受賞しました。

現在の課題は高齢化。それでも河村さん、末廣さんは明るい笑顔できつぱり語ってくれました。

「後継者がいないと嘆くより、私たちが明るく楽しく活動していればきっと人は寄って来ると思います。地域の皆さんの温かい支援、協力の元で私たちは頑張っていきたいと思っています」



小行司地区

農山漁村女性・シニア 活動表彰

農林水産業や農山漁村生活、農山漁村の活性化に優れた活動の実績をもち、男女共同参画の推進、または、いきいきとした高齢者の活動の推進のために積極的に活動している経験豊富な女性・高齢者（団体・個人）を表彰するものです。農山漁村男女共同参画推進協議会が主催しています。



食堂が大人気!地域の皆さんや農事組合法人などが作った野菜や米を使用しています。



持ち帰り用の寿司は、みるみるうちに品切れに。弁当の注文も受けています。



手作りの味や手ごろな値段が喜ばれ、多くのお客さんがお昼どきに訪れます。



小行司健康グループが地域資源を点検し、その成果をまとめた「にこにこマップ」。地域への誇りと愛情が伝わってきます。



山口県知事賞

『稲掛けを終えて』 周南市四熊庄原
岩本 進 (周南市)

四熊の田園地帯へ彼岸花の撮影に出かけました。庄原の集落の近くに稲掛けが沢山見られる所に出て、そこで稲掛けの片付け作業をして居られる農家の人に出会いました。近辺には彼岸花が咲いていて、絶好の添景となってくれました。



山口県地球人会議会長賞

『粉干し』 山口市徳地三谷
新井正義 (周南市)

車で通りすがりに懐かしい光景に出会い、お願いして写らせていただきました。子どもの頃には自分の家でもよく粉干しを手伝った思い出がよみがえってきました。

山口県内の農山漁村の良さを再発見していただく「水・土・人・暮らし」をテーマに、平成11年度から始まった「食料・環境・ふるさと写真コンテスト」。14回目を迎える今年度は、7月から12月にかけて募集を行ない、県下各地から農山漁村の風景や生き物、人々の営み、伝統文化、などを撮った364点の作品の応募がありました。

すばらしい自然や文化が数多く残る農山漁村は、まさに私たちの、そして生き物たちの心通うかけがえのないやすらぎの地、次世代に残していきたい宝です。入賞作品24点を紹介します。

一般の部

入賞作品のご紹介

食料・環境「水・土・人・暮らし」 ふるさと写真コンテスト

第14回

14th

Furusato

Photography

Contest



小行司健康グループ の歩み

History Since 1988

- 昭和63年 小行司の点検マップづくり
- 平成元年 小行司健康グループ結成
- 平成6年 加工施設建設
- 平成8年 飲食店営業施設・直売施設を増設
- 平成14年 田布施地域交流館に出荷開始
- 平成15年 施設の増改築
- 平成17年 JA遊気百菜(柳井市)に出荷開始
- 平成18年 やまぐちフラワーランド(柳井市)に出荷開始
やまぐち農山漁村女性起業ネットワーク加入
- 平成19年 やまぐち農山漁村女性起業統一ブランド認定
「小行司かあちゃんの福神漬」
- 平成20年 企業組合として法人化
- 平成21年 地域との連携協議開始
- 平成22年 施設の改装、ロゴマーク作成、ホームページ開設、
新商品開発研修、サロン開催
- 平成23年 にこここパークリニューアルオープン



地域点検活動



野菜栽培講座



にこここパーク食堂



企業組合設立



食彩店認定



農林大臣表彰

企業組合小行司健康グループ

小行司にこここパーク



住所: 田布施町小行司(県道7号沿い)

電話番号: 0820-53-1550

店休日: 毎週日曜日 営業時間: 10時から14時まで

食堂◎うどん、惣菜セット、おすし、

小行司特製カレー、名物「大豆コロッケ」など

直売◎旬の野菜、手作りお菓子、お弁当、パン、漬物、

手づくりこんにゃく、小行司米、ひのき炭、

生活用品など



【異星人】宇部市床波西岐波
大井幸枝（萩市）

瀬戸内海はタコ漁が盛んだそうで、蛸が風のようにプカプカと浮いているように見えました。逆光で撮ることで質感を出し、蛸が妖しく見えたり宇宙人のようにユーモラスに思えました。



【秋との別れ】下関市豊北町
磯部彰六（下関市）

秋の稲刈りや収穫を終え、田んぼに残したはげかけ用の竹を始末している様子。秋は去り、季節は冬へと秋との別れを惜むかのような情景を撮りました。



入選



14th

Furusato

Photography

Contest



【食材ゲット〜!】山口市名田島
泉 由紀子（山口市）

名田島のイベントでのじゃがいも掘り体験中の笑顔です。土の中から出てくる大きなじゃがいもに大よろこび。掘りたてのじゃがいもは丸ごとジャガバターでとっても美味しくいただきました。自分で掘ったじゃがいもの味は格別だったようです。



【霧の朝】美祿市秋芳町嘉万
岡村弘美（宇部市）

懐かしいとしゃくとの並ぶ霧の朝の風景です。



【晩秋】宇部市万倉
永富賢治（宇部市）

晩秋の夕光にてらされて、赤く熟した柿が光っていました。柿の木の右にはダイコンが植えられて、ホッとする光景でした。



山口新聞社賞

【収穫の笑顔】下関市川棚
河野サエ子（下関市）

手作業で稲を刈る農婦の笑顔に心良い印象を感じました。



水土里ネット山口会長賞

【落鮎漁】岩国市錦川
世良 昭（周南市）

鮎は別名「香魚」とも呼ばれている。水中の岩に付いた苔を食べるので匂いがとてもいい。だから香魚と呼ばれる所以である。ところが最近では天然鮎は量も少なく高価であるから手に入り難い。秋の一日、錦川を訪ねた折、投網で鮎を漁っていた。鮎は日本の食文化の一端を担っていることは間違いないことである。



【農作業 大根ひき】岩国市美和町阿賀
坂本辰夫（岩国市）

農事組合法人「阿賀當農組合」女性部が毎年この時期に「たくあん漬け」を作っています。はげ干しをして12月20日頃漬け込む予定です。里の駅、電話での注文、阿賀ふれあいセンター等で販売しています。味が良く、安価ですので売切になります。



【麦秋】山口市佐山
飯田一仁（宇部市）

青空の下の麦の実りを写してみました。



【神舞神事】上関町祝島
小西富喜子（光市）

4年に一度の祝島の神舞です。3隻の神船を中心に権伝馬船、奉迎船が勇壮に海上をやってきます。感動の瞬間の幕開けです。

第14回

食料・環境「水・土・人・くらし」
ふるさと写真コンテスト

入賞作品のご紹介



【芝桜の里】周南市鹿野大道理
来栖旬男（山口市）

山里の地形を利用したスケールの大きい村おこしである。棚田の畦が芝桜で鮮やかに彩られ、春のおとずれを告げているようだ。



【早春の水辺】山口市徳地
河村与作（下松市）

長い冬も去り、美しい花を求めての1日。



中国新聞防長本社賞

【夕日を浴びて】長門市
重村哲雄（山口市）

小さな棚田を老夫婦で守っている姿を記録したく、撮影しました。



『田万川にふじ山!?!』 萩市田万川
岩本あい (萩市・小学4年)

写真を撮った理由は、田万川にひさしふりに雪がふってきて、山に雪が積もり、きれいだなと思ったからです。静岡県にあるふじ山は見られないから、この田万川にふじ山みたいな山が見られてうれしかったです。



『だれカー、こないカー!』 萩市田万川
板井遥香 (萩市・小学4年)

理由は、カラスはいつも見ているけど、このカラスは一生きん命に、仲間をよんでいる感じがしたからです。このカラスはハシブトカラスで、きれいにすぎ通った声で、鳴きます。そのすがたが見られてよかったです。



『秋のくっしんぼう(ガマの実)』
周南市の小学校の校庭
玉野愛斗 (周南市・小学3年)

秋の虫をさがそうと、校庭に出かけたら、ふしぎな串ざしの実が…。図かんで調べてみたら「ガマの実」でした。



『冬の漁こう』
宇部市丸お漁こう
岡本 萌 (宇部市・小学2年)

強い北風にふかれて船がゆれていた。北風に負けないふるさとのか強いふうけいにかんどうした。



『漁網』
宇部市東岐波丸尾漁港
岡本真奈 (宇部市・小学6年)

このあみで何百、何千の魚がとれたのだろうか? 使い古されたあみに古里への愛着を感じた。



山口県地球人会議会長賞
『御田植祭』 防府市防府天満宮
松本綾香 (下松市・小学4年)

神事の後、春風楼前にきゅうりで作った馬、なすびで作った牛、小さな錦、銀を供えられた飯の神田で3名の巫女が田植えを行い、その年の豊作を祈願しました。また参拝者も神事が終わるや否や参集の人々が先を争って神力が付いた稲の苗などを持ち帰って自分の田に植えることで豊作を祈ります。



優秀賞
『葉っぱのハロウィン・パーティー』
周南市の小学校の校庭
渡辺巧真 (周南市・小学3年)

秋には落ち葉がたくさんだよ。色も形もいろいろあるよ。でも、この葉っぱは特別!



優秀賞
『いいちゃん、ばあちゃん笑ってー!』 周南市
三浦沙紀 (下松市・年中)

今日初めてパパのカメラで撮ったよ。おいしいちゃん、おばあちゃんをきれいに撮ってあげたら、「上手ー!」ってよこんでくれたのがうれしかったよ (家族で実家に遊びに行った時に4歳の娘が撮った写真です。この日初めて自分のカメラを貸してあげたら、よこんでいろいろなものを写してました。「おいしいちゃん、おばあちゃんを撮ってあげる!」と意気込み、「笑ってー!」と二人に指示まで出していました。)



優秀賞
『てきが来た!』 萩市田万川
原川優佳 (萩市・小学4年)

田万川には、たくさんのカモがやってきます。けど、カモはてきがきたら自分の身をまもるためにすぐに飛んでしまいます。そのしゅん間をカメラにおさめることができたのでとてもうれしかったです。

14th
Furusato
Photography
Contest

こどもたちの力作!



入選



第14回
食料・環境「水・土・人・くらし」
ふるさと写真コンテスト

入賞作品のご紹介



主催/ 食料・環境・ふるさとを考える
山口県地球人会議

山口県・水土里ネット山口

後援/ 山口新聞社・中国新聞防長本社

協賛/ 富士フィルムイメージング株式会社

株式会社 山口フジカラー





教えてQ&A

土地改良区・ 水土里ネットって 何だろう

「土地改良区って何?」「水土里ネットって何?」
そんな疑問をお持ちの方、少なくないのではないで
しょうか。農家ではない皆さんもぜひ土地改良区・
水土里ネットについて知り、山口県の豊かな里づく
りを一緒に進めていきましょう。

Congratulations!!

入選おめでとう!!

「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展2012

主催:全国水土里ネット・都道府県水土里ネット



水土里ネット山口 会長賞

「田植え体験」

周南市立久米小学校5年(当時)

堂山明日香さん



入選「サバァ送り」

長門市立日置小学校4年(当時)

山崎雄太さん



入選「田植えの作業」

山陽小野田市立植生小学校5年(当時)

島田一樹さん

豊か
か
で美しく、楽しい「ふるさとの田んぼと水」の世界を通じて、ふるさとに誇りを持ち、農業・農村の大切さについて考えることを目的に行われている「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展。今年、13回目を迎えたこの絵画展は、未就学の3歳から小学校6年生までを対象とした絵画コンクールです。
「新発見!ほくのわたしのふるさと」というテーマで行われた2012年、同展には全国から8,745点にも及ぶ応募があり、審査の結果、山口県からは3名の方が入選に選ばれました。おめでとうございます。
入選作品3点をご紹介します。

Q 「土地改良区」って、どんな組織？

A 土地改良区とは、主に地域の水と農地を守る活動を行う「農家の人たちの組織」です。それ以外にも、地域の皆さんと一緒にさまざまな地域づくりを展開しています。

Q 「水土里ネット」とは？

A 水土里ネットとは、土地改良区の愛称です。「水」は農業用水や地域用水。「土」は土地や農地。「里」は農村空間、農家や地域住民が仲良く暮らすことを意味しています。つまり、水と土を大切にする中で、農家だけでなく、地域住民や都市住民の皆さんと一緒に、豊かな里づくりを進めていこうということを表した愛称なのです。



Q 地域の皆さんと一緒に、どんな地域づくりを行っているの？

A 例えば、古民家の改装による宿泊受け入れや、農産物を活用した体験活動といった「地域資源を活用した村おこし」などです。

Q 課題はあるの？

A 近年、農地の近くに住宅地が増えて混住化が進んでいることや、過疎化、高齢化、後継者不足など、土地改良区は多くの難しい課題を抱えています。そうした中で、例えば、これまで土地改良区で管理してきた水利施設などの管理に支障が生じ始めています。

Q 課題を抱える中、どんな活動を進めようとしているの？

A まず、農家以外の皆さんにも、土地改良区についてもっと知ってもらおうと、県内各地でさまざまな活動を行っています。例えば、水辺の生物観察会や、農業水利施設の見学、田植えや稲刈り体験など。そうした機会を通じて、私たちの命を支えている農業の大切さ



Q どんな役割を担っているの？

A 農業用水や農地は、食料の安定供給に欠かせないものです。さらに農業用水や農地は、国土の保全や、心に安らぎを与える美しい農村景観といった「多面的機能」も持つ、すべての国民の皆さんにとって大切な資源です。

土地改良区は、そうした大切な資源を大切を守り育てることを通じて豊かで住みよい農村づくりを目指しています。また、「環境や景観の維持」といった新しい役割を果たすことも期待されています。

を知ってほしい、豊かな里づくりにぜひ一緒にかかわってほしいと願っています。「多面的機能」を持つ農業用水や農地を、私たちと一緒に守っていきませんか。



Q どうやって運営されているの？

A 土地改良区は、その地区内の組合員によって組織されています。土地改良区の意志は、組合員の総会で決定されます。運営は組合員が選挙（選任）した役員によって行われ、運営経費は組合員の負担でまかなわれています。

Q 地域の水と農地を守る活動って、具体的には、どんな活動なの？

A 1つは、農業を行う上で欠かせない「水源の確保や、用水路などの農業水利施設の整備・管理」です。2つめは、農地や地域の雨水、集落からの排水などを安全かつ確実に排除するための「排水路の整備・管理」。



3つめとして、田んぼや畑をまとめたり、大きく広げて整えたりする「水田や畑の整備」。

4つめとして、「農村で発生する有機性資源（集落排水汚泥）の農地への還元」など、循環型社会の構築にも取り組んでいます。



**受賞おめでとう！
全国土地改良功労者表彰
農林水産大臣賞
下関土地改良区**

大規模な合併を実現！

平成25年3月、全国土地改良事業団体連合会が主催する第54回全国土地改良功労者表彰式において、下関土地改良区に農林水産大臣賞が授与されました。

土地改良区は近年、過疎化など、多くの課題に直面しています。そうした中で平成22年、王喜清末王司安岡・内日の5地区の関係土地改良区が合併し、下関土地改良区が誕生しました。その結果、大幅な経費節減や、土地改良施設管理への一層積極的な取り組みなどの効果が生まれ、多くの視察団が訪れるようになりました。

地域住民の皆さんとの連携

各地区の運営委員は、自治会や営農組合などと連携し、生態系に配慮しながら施設の維持管理を行っています。

また、深坂溜池・内日ダムでは、地域住民の皆さんと水神祭りや清掃などを行い、自然環境保護運動も含めた都市住民との交流を図り、地域活性化に取り組んでいます。



農林水産大臣賞賞状

のんた Photo Column vol.15



芽吹く緑の木々のまにまに

霞をかけたように咲く山桜

柔らかな陽光にきらめく水面

春風にのって響く

軽やかな小鳥たちのさえずり

瑞々しい空気で満たされる

静かな里山の春化粧

新しい生命の息吹がそこここに

発行

食料・環境・ふるさとを考える

山口県地球人会議 事務局

〒753-0079 山口県山口市糸米2丁目13番35号 水土里ネット山口 山口県土地改良事業団体連合会内
TEL:083-933-0033 FAX:083-933-0048 URL:<http://www.yamadoren.or.jp/>